



■22日、会食を伴う「感謝のつどい」を4年ぶりに開催いたしました。この「感謝のつどい」とは単なる行事ではありません。地域・家庭・学校が連携して行う秋の最大イベントであり、西郷が西郷らしくあるための行事と言えるかもしれません。厳しかった暑さを乗り越えて、豊かに実ったお米・大根・大豆・ネギは、みんなが力を合わせ、共に汗した証。世代を超えた西郷住民のつながりの象徴とも言えます。こうした地域文化を、本校は大切に受け継ぎました……。

■ただメニューについては、お米を育ててくださる保養者の皆様、ネギ栽培でお世話をされている伊藤様、大豆栽培でお世話をされている阿部様と話し合って、おにぎり＆豚汁へと切り替えさせていただきました。それは「感謝のつどい」を5年後10年後も持続可能にしていくための工夫・手立てです。ただ、メニューは変わりましたが、西郷の子どもたちに地域・家庭の皆様が寄せてくださる想い、そして、子どもたちとわたしたちの感謝の気持ちちは、何一つ変わっていないと考えています。学校では「西郷を大切にする子」の育成をめざしてきましたが、「西郷を大切にする子」は学校だけでは育ちません。地域やお家の方々の西郷に対する想いや願いにふれることで初めて、子どもたちの心にスイッチが入るのだと考えてきました。皆様方に愛されて育った子どもたちは皆いい子です。自慢の子どもたちです。

■22日の「感謝のつどい」を通じて、西郷の子どもたちは、ますます西郷が大好きになりました！そして、支えてくださる地域や家庭の皆様にとっては、西郷の子どもたちが、ますます愛おしく、かけがえのない存在を感じられたのではないかでしょうか。そうです。「感謝のつどい」とは、こうした想いを実感する大切な大切な「記念日」なのです……。

～ふるさと～西郷への想いを乗せて

♡感謝のつどいで全校合唱した曲は「ふるさと」。NHK全国学校音楽コンクール課題曲にもなったこの曲は、嵐の持ち歌です。彼らは東日本大震災からの復興を願って、この曲を被災地で歌い、傷ついた方々の心を癒し、励まし続けて来ました……。それで、いつしか人の心を動かす力が宿ったのかもしれません。♡2年生の学年だよりには「この曲を聴いていると、なんだか涙が出てきそうになる…。」と言った2年生の言葉が綴られています。

♡11月8日。全校での初めての歌練習で、高学年から聴こえてくる歌声に鳥肌が立ちました。声量・響きが格段に上達しているのです。理由を聞くと、5・6年生で合同練習してきたとのこと。今年度の重点である「異学年交流」の成果でした。その後「異学年交流」は、さらに広がりを見せます。高学年の歌声に感動した1~4年生が「5・6年生のように歌いたい！」と、学年の枠を越えて、誘い合い、合同練習を始めたのです。1年と2年、3年と4年。2・3・4年生が廊下に並んで歌った日もありました。その姿は、いつか実現させたいと目標に掲げてきた「6年生に憧れる学校」そのものでした……。

♡11月17日、5年道徳で「西郷のよさって何だろう？」をテーマに話し合いました。わたしたち西郷の子どもたちに、優しく声をかけてくださる方々、「おおぞら」で見守ってくださる方々、登校の安全を見届け、あいさつしてくださる方々への感謝の言葉が、溢れるように出てきました。授業の終わりに「感謝のつどいでは『ふるさと』の合唱にどんな思いを込めますか？」と聞きました。「お世話になった方々へ、お礼の気持ちを込めて歌いたい。」「心を込めて歌うから、田畠や『おおぞら』、登校班でお世話になったみなさんに喜んでもらいたい。」等と、5年生は答えました。

♡このメッセージは、全校児童・全職員のメッセージでもあります。嵐の5人のように、全校合唱「ふるさと」に乗せたわたしたちの想いは、お世話になったみなさんの心へと届いたでしょうか？

ふるさと

作詞：小山薰堂 作曲：youth case

朝焼色の空に またたく星ひとつ
小さな光が照らす 大いなる勇気
何気ない日々の中に 明日の種を探せば
始まりの鐘が響く いま君のために
雨降る日があるから虹が出る
苦しみぬくから強くなる
進む道も夢の地図も
すべては心の中にある
助けあえる友との思い出を
いつまでも大切にしたい
進む道も夢の地図も
それはふるさと 僕のふるさと
ここはふるさと